月刊
城南SSH
福岡県立城南高等学校
スーパーサイエンスハイスクール
活動報告紙

令和４年度 11 月号
ＳＳＨ部発行

第１学年　学校設定科目

ESD 探究「地域探究活動」

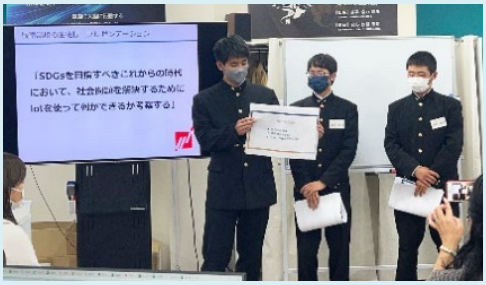
１１月９日（水）に、地域探究活動の一環として企業訪問を行いました。この活動は、情報収集や考察、プレゼンテーションなど、「課題解決」に必要な手法を学ぶことを目的としています。

事前準備では、各企業から生徒たちに提示された課題についてインターネット等を用いて情報収集し、その課題の解決方法を班ごとに考えました。ある企業から提示された、農業利用がなくなった「ため池」の新たな活用方法に関する課題に対しては、管理釣り場としての運用を提案する班や、水上太陽光発電で得られた電気を使ったビオトープづくりを提案する班などがありました。どの班も高校生らしいユニークな視点で、与えられた課題をどのように解決するか活発に議論していました。

企業訪問当日は、それぞれの企業の仕事内容や、他の企業とのつながり（サプライチェーン）、各企業が実施している地域貢献活動などについて説明していただきました。研究施設の見学や、城南高校のＣＭ作成体験など貴重な経験を得られたようです。また、自分たちが考えた課題解決方法のプレゼンテーションを行う場面では、緊張しながらも堂々とした態度で発表することができました。訪問後には「実際に仕事の様子を見て、この業界に興味がわいた。」「プレゼンテーションに対してたくさんのアドバイスをいただいた。勉強になった。」等、充実した時間を過ごせたことを笑顔で報告してくれました。

今後は、企業の方にいただいたアドバイスも含めながら、校内報告会でシェアリングを進めていきます。

施設の見学中



企業の課題解決について
プレゼンテーション

令和４年度 SSH 講演会

11 月 14 日、九州大学大学院システム情報科学研究院の島田　敬士教授を講師にお迎えし、「データサイエンスの最先端と社会への活用～教育分野への応用展開を中心に～」と題して SSH 講演会が実施されました。

実世界で計測・収集したビックデータから有益な情報を得て、社会サービスへ還元する「サイバーフィジカルシステム(CPS)」という仕組みは現在の主流になりつつあり、「画像・映像」「動作・活動」「人流・滞留」「教育・学習」の４分野について、活用例を紹介いただきました。

また、これらを支える技術の一つ「パターン認識」について、リンゴとミカンを例に、色や形の数値化から識別境界まで、高校数学の内容を用いて平易かつ簡潔に教えていただきました。

他にも、九州大学で活用されている、オンライン授業でのリアルタイム学習活動分析や成績予測、教材の自動集約など「ラーニングアナリティクス」の例もご紹介いただきました。生徒の感想からも「データサイエンスの活用を知ることは、文系理系問わず必要だということがよく分かった」「Wi-fi をセンサとしていることは驚いた」「データサイエンスは現代社会の“読み・書き・そろばん”であるという言葉が印象的だった」等、関心の高さが感じられました。